

1. 件名： OECD/NEA（経済協力開発機構/原子力機関）国際共同研究プロジェクト「燃料デブリ分析に係る予備的考案（PreADES）」の今後の取扱いに関する日本原子力研究開発機構（JAEA）、東京電力等との面談
2. 日時： 2020年6月9日（火）17時30分～19時00分
3. 場所： 原子力規制庁 5階会議室
4. 出席者：
 - 原子力規制庁
 - 原子力規制部東京電力福島第一原子力発電所事故対策室 林田管理管補佐、岩永企画調査官、星主任研究調査官
 - 長官官房総務課国際室 後藤補佐、岩本専門職
 - 経済産業省資源エネルギー庁
 - 電力・ガス事業部原子力発電所事故収束対応室 田中補佐、金杉係長、黒沢係長（テレビ会議システムによる出席）
 - 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構（JAEA）
 - 福島研究開発部門廃炉環境国際共同研究センター 岡本センター長 他3名
 - 安全研究・防災支援部門安全研究センター 副センター長（テレビ会議システムによる出席）
 - 東京電力ホールディングス株式会社
 - 福島第一廃炉推進カンパニー
 - 福島第一原子力発電所 燃料デブリ取り出しプログラム部 溝上部長（テレビ会議システムによる出席）
 - 原子力損害賠償・廃炉等支援機構
 - 国際グループ 岡本執行役員 他2名
 - 技術グループ 審議役（テレビ会議システムによる出席）
5. 要旨

OECD/NEA の国際共同研究プロジェクトとして実施されている PreADES および ARC-F の活動について、エネ庁および運営主体である JAEA より説明がなされた。説明の中では、特に両プロジェクトの終了年次が近づいていることもあり、後継のプロジェクトについて、事前に規制庁から説明を求めていた後継組織における目的や実施に関しても説明がなされた。今後はエネ庁および規制庁からのニーズ、産学の分野からの要望を踏まえた組織運営についての具体案を JAEA において整理し、それに基づいて議論を継続することとした。
6. その他
 - ・ 配付資料なし